

検討項目②市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと～市民と行政のキャッチボールを実現するために～(総まとめ)

(1) 検討項目②に関する各グループの意見の整理

カテゴリー(大)	課題・問題点			解決策・仕組み	
	課題・問題点の整理(カテゴリー(中))	各グループから挙げた課題・問題点		課題・問題点の整理(カテゴリー(中))	各グループから挙げた解決策・仕組み
市民意見	・制度や機会の周知不足 (A・B・C・D)	情報の発信の仕方に問題があるのではないかと。 アパートへ入居していると広報誌なども届かず情報が入らずこまわってしまっ。改善の必要があると思う。 情報伝達方法(広報誌を見ない人・HPを見れない人) 情報の偏り 情報提供が不足している。 行政側の情報提供の手段・方法が不十分。 教科書選定に参画したいが、どうしたら良いかわからない。	➡	・情報提供の充実 (B・D)	転入の際に市のHPを教える。HPの利用 コンビニや病院などに広報誌を置いておく。 新聞折り込みに広報紙を入れる。 地デジの活用
	・情報の不足 (A・B・C)	伝えたいことがあっても、どうやって伝えればいいのか分かりにくいので、分かりやすくする必要があるので。 どこにどのような意見を伝えれば良いのかがよく分からない。 地域活動・市政への参加の仕方が分からない。 自分の意見を市に伝えたくてもどこに伝えればいいのか分からない。	➡	・分かりやすい情報提供 (A・C・D)	魅力ある情報提供のあり方 市政だよりの改善。おもしろくする！ 市政を分かりやすく四コマにまとめる。 編集、ネタ集めに市民も参加する。世代別モニター 編集のプロを引っぱれないか？もしくは育成できないか？ 字を大きくする！！良い見出しを一生懸命考えるしかない。 絵・写真を多くする。 読者投稿ページを設ける。 専用の窓口をつくる。 情報提供
	・情報が公開されていない ・意見が反映されにくい (A・B・C)	意見が反映されているのかどうか分からない。 参加したくない←意見を出しても回答がないので反映されたのか分からない。 一個人の意見としては反映できないこと。 市民の総意であるかを判断することが困難であること。 まちづくりへの参加の一形態としての要望に財源の裏付けややめてもいい事業の案が無い。 参画しようとして意見を出す、まず、できない理由をのべられ、それ以上話が進まない。 行政の審議会に参加して意見を出しても施策に反映されない。 市に問い合わせたときに、自分の意見に対してきちんと取り合ってくれるのか不安。	➡	・情報公開の推進 (A・C)	情報の公開を推進し、それに対する想いや意見集約の行い方を体系的に行う。 決定過程の公開
	・意見の偏り (C)	一部の声の大きい人の意見や思いが伝わりやすくなっている。	➡	・意見のバランスをとる (A・D)	市が関係している会議に参加している人や、業務で市役所に入りしている人以外の市民の方の思い・意見にも目を向ける。 積極的に参加する人だけの意見で進めないようにバランス感覚も必要。
市民参画	・参加の場や機会が少ない、参加しにくい、環境が整っていない	市民が参加しやすい環境をどう整えていくのか？ 街路樹の伐採をやめさせる参画の方法がない。	➡	・参加の場や機会の充実 ・参加しやすい環境の整備	みんなが集まりやすい場所で開催する。 場所と時間を配慮する。

	(A・C・D)	市民が欲するものと行政が提供するものの不一致。 市民ニーズを把握できない。 ネットが使えない。 時間がなくて会への参加ができない。仕事で、子育てで、介護で。 関心はあっても、何をしたいのかわからない。 町内会に入っていないと要望しにくい。		・参加方法の提示 (A・C・D)	ピンポイント会議 環境整備 雰囲気づくり 目安箱の設置 ツイッター(つぶやき)程度で意見を言える環境をつくる。 集まりやすい時間設定をする。 インターネットなどで参加できるようにする。 子育て世代や介護している人が参加できるように環境を整える(託児所、デイサービスなど)。 参加できる雰囲気をつくる。 市民参加のしかたを提示して市民が選択できるようにする。(自分の得意分野を活かせるよう)選択するメニューを増やす。 参加形式の多様性 個人でも参加しやすい受け皿を企画する。 参加した理由を分析して、より多くの人の参加につなげる。→行政が。 原因を追及する。アンケート調査などで。
	・市民の関心が低い ・人材が育たない (A・C・D)	参加を積極的なものにするにはどうしたらいい？ 興味を持たせるにはどうしたらよいか？ 仕事として人を集めるのは良いが、もっと積極的に参加してほしい。 市民の意識が低い。市民の意識を高めるには？	→	・市民意識を高める ・教育・人材育成 (A・D)	市政のみではなく、市でおきている物事に関心を持つべき。 計画は、有識者等の意見が重要であると思うが、実施、反省は、市民の参加がとても重要である。 Plan・Do・Seeそれぞれの段階で市民は積極的に参加するとよい。 市民の意識改善の必要。 子どもを対象として体験型のイベントを通して行政への関わり方への意識付けをする。 参加した証(成果)が必ず残るようにする。 地域への愛着、連帯感、歴史伝統への関心を高める。
	・その他 (D)	団体に入りにくい。	→	・団体の情報提供 (D)	きめ細かな情報提供(団体に入りたい人)。
	・行政の対応 (A) (課題のみ提起されている)	対応に時間がかかる。 柔軟性がきかない、融通がきかない、妥協するのは民間。 思いつきやいきおいで行動する。民間に対して行政は慎重すぎる。 決定するまでのプロセスをどう効率化するか？ 公平・公正さを求めるといきづまる。 どうにも後手になってしまう。	→		
協働	・役割や責任が不明確 (B・C)	行政の役割と個人の役割が不明確な部分が多い。 明らかに個人の問題について行政に持ち込まれることがある。 自分の家庭(または敷地)内のことやその類似事項については、自ら取り組んでほしい。 協働という名もとの市民への負担(強制労働?)	→	・役割分担・手続きの明確化 (B・C)	問題解決に対しての手引書の作成 (困りごと・相談についての)フローチャート的なものを作成。
	・各主体の協力・連携不足 ・各主体の意識が低い (A・B・C・D)	イベント活動の他、本検討会のような行政への意見を直接言えるような機会に積極的に参加してほしい。 官・民の意識の差、協働の難しさ	→	・各主体間の交流 ・各主体の意識を高める ・人材育成	民間と行政がお互いに歩み寄ることが真の協働につながる。 窓口でお客様に言われたことを職員全体に広めるために話し合

		<p>意識の差をどのようにうめるのか？ 市民・職員の参加率向上の為には。 民間の行事に市職員がもっと積極的に参加すべき。 ヨコの連携をうまく機能させるためには？ 地区内の行事に参加・町内会単位の参加・若者の参加がほしい。 市民と行政の横の連絡がうまくいっていない時がある。 担当者が2～3年で変わってしまう。 やっとな顔を覚えてもらうと担当者がいなくなる。→1から同じ事を説明しなければならない。 市民の意識が低い。市民の意識を高めるには？</p>		<p>・行政による支援 (A・B・C・D)</p>	<p>う。 各課交流の場を設ける(例えばお昼休みに一緒に食べるとか)。 地域交流を深める。 アパート入居者などにも声をかけ、地域一丸となって活動を出来たら良いと思う(住みよいまちづくりの為に、...) グループ分けで交流のきっかけを作る(スポーツ行事など)。リーダーに引っ張ってもらう。 市民と行政との距離を縮める。 市民の意識改善の必要。 行政もフォローする。 行政としての責任意識を持つ。 地域への愛着、連帯感、歴史伝統への関心を高める。 ボランティアなど身近なところから市政への関心を高めてもらう(入口を広くする)。</p>
<p>・活動資金の不足 (A・B)</p>		<p>要望があり、協力したくても予算がなくてできない。 参加者が少ない。資金が集まらない。</p>	<p>➡</p>	<p>・行政による支援 ・広域的なPR (A・B)</p>	<p>予算の取り方を何とかする。 伝統的な行事を継承していく為に広くPRすれば募金も集まり地域の活性化につながる。</p>
<p>・行政の対応 (A) (課題のみ提起されている)</p>		<p>対応に時間がかかる。 柔軟性がきかない、融通がきかない、妥協するのは民間。 思いつきやいきおいで行動する。民間に対して行政は慎重すぎる。 決定するまでのプロセスをどう効率化するか？ 公平・公正さを求めるといきづまる。 どうにも後手になってしまう。</p>	<p>➡</p>		